



# 図書館だより

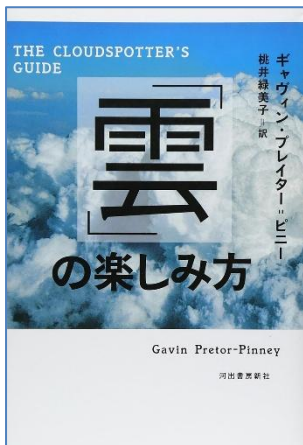
令和8年5月

八尾高校図書委員会

31H 豊倉・河合

## 自然

新学期が始まりました。今年はたくさん本を読んで、読書の一年にしましょう。今月の図書館だよりのテーマは“自然”です。



「雲の楽しみ方」 ギャヴィン・プレイター=ピニー 河出書房新社  
雲なんてただのモクモクだと思ってる人、ちょっと待ってください。私が紹介するのは、『雲の楽しみ方』です。この本は、雲の楽しいところが細かく沢山解説されています。本当に全然むずかしくなくて、とても面白いです。雲にはちゃんと名前があって、「え、それ名前ついていたの？」みたいな発見がけっこうあります。これを読むと、今まで見ていた空からいろいろな発見があります。この本は、雲の様々な種類や雑学で友達にドヤりたい人におすすめです。絵でわかりやすく解説されていて、文字を読むのに慣れていない人でもサクサク読めますし、自分が気になる内容だけピックアップして読むのも楽しいです。スマホ見るのに飽きたら、たまにはこの本と空も見てみてください。(K)

## 「カミナリはここに落ちる」

岡野大祐 オーム社

雷という自然現象をテーマに、その発生の仕組みや危険性、そして人や社会との関わりをわかりやすく解説した一冊です。科学的な視点を軸にしながら、実際の被害事例や安全対策にも触れ、日常生活に潜むリスクへの理解を深められます。専門知識がなくても読みやすく、身近な防災意識を高めてくれる内容です。(T)



## 「地震のすべてがわかる本」

土井恵治 成美堂出版

地震の発生メカニズムから被害、予測までを幅広く解説した入門書です。プレートの動きや断層運動、地震波などの基礎知識を、イラストや写真を用いてわかりやすく説明しています。また、津波や液状化といった関連現象にも触れ、地震の全体像を総合的に理解できる内容となっています。専門的な内容をやさしく学べる一冊です。(T)





# 「月に恋」

ネイチャー・プロ編集室 PHP 研究所

全ページに、もしくは見開きで、見ていて惹きつけられる月の写真が載っています。だから、パラパラとページをめくっているだけで月の魅力が伝わってきます。とにかく写真がたくさん収められていて、そのどれもが息をのむほどきれいで、ただ眺めているだけでも満足できる一冊です。夜空に浮かぶ月の表情がこんなにも多彩なんだと気づかされて、時間を忘れて見入ってしまいます。ただ、いざ「少し読んでみよう」と思うと、どこからどう読めばいいのか少し迷ってしまうところもあって、正直ちょっと難しく感じる部分もあります。俳句や、昔の人がどんなふうに月を見て、どんな思いを抱いてきたのかといった歴史的な話も載っているのですが、それがすべてすんなり理解できるわけではありません。それでも、不思議と「月っていいな」と思う気持ちや、人が月に惹かれてきた理由のようなものはじんわり伝わってきます。きれいな写真を楽しみながら、少しずつ月についての感覚を深めていける、そんな不思議な魅力のある本です。(K)



## 新着図書紹介



図書館前に展示中

- 勝手な夢を押しつける親を憎む優等生と、東大は無理とバカにされた学年ビリが、現役合格した話:坪田信貴
- モノも石も死者も生きている世界の民から人類学者が教わったこと:奥野克巳
- 青天:若林正恭
- 面白くて眠れなくなる江戸思想:橋爪大三郎
- Demon slayer.1~23:Koyoharu Gotouge
- しれっと逃げ出すための本。:ヨシダナギ
- 張良:宮城谷昌光
- 人はなぜ爬虫類を飼うのか:坂爪真吾
- 人類の起源:篠田謙一
- カフェの帰り道:嶋津輝
- カフエの帰り道
- 日本美術の歴史 補訂版:辻惟雄
- 地球星人:村田沙耶香
- 新解きたくなる数学:佐藤雅彦
- 生きとるわ:又吉直樹
- ひっくり返す人類学:奥野克巳
- 大転生時代:島田雅彦
- 超空洞物語:古川日出男
- 水滸伝 3~19:北方謙三
- 神の蝶、舞う果て:上橋菜穂子
- 償い:山崎裕侍
- 飼い犬に腹を噛まれる:彬子女王
- 熟柿:佐藤正午
- 探偵小石は恋しない:森バジル
- ありか:瀬尾まいこ
- エピクロス処方箋:夏川草介
- 珈琲怪談:恩田陸
- 考察する若者たち:三宅香帆
- 失われた貌:櫻田智也

